

# 第63回数理社会学会大会

## ワンステップアップ・セミナーのご案内

第63回数理社会学会大会前日の2017年3月13日（月）に、ワンステップアップ・セミナーを下記の要領で開催します。大林真也会員を講師とし、分析社会学について考えます。会員・非会員を問わずどなたでも参加できますので、奮ってご参加ください。

### 1. 題目

分析社会学入門：理論研究と実証研究の架橋

### 2. 講師

大林真也（東京大学大学院経済学研究科・日本学術振興会特別研究员 PD）

### 3. 日時

2017年3月13日（月）15:30～17:30

### 4. 会場

関西大学千里山キャンパス 第3学舎 A401(B)

### 5. 内容

近年、ヨーロッパを中心に「分析社会学（Analytical Sociology）」が注目を集めています。分析社会学は、  
①ミクロな相互作用やネットワークに着目しつつ、②理

論志向の経験的研究（theory-guided empirical analysis）

を行うことによって、③マクロな社会現象のメカニズムを解明する、という3つの大きな特徴をもっています。したがって、理論研究と経験的研究を架橋する知的運動という側面を持っています。このセミナーでは、分析社会学という知的運動は何なのか、どのようにすれば分析社会学的研究ができるのかということを、理論的・実践的なレベルの両面から整理していきます。

### 6. 目標

分析社会学の基本的枠組みと具体的な研究を紹介します。分析社会学の特徴・利点・問題点を整理します。そのうえで、実際に「理論志向の経験的分析」を行うにはどうしたらよいかを、皆さんと考えつつ論点を整理することを目標とします。

## 7. 扱う項目

①理論・枠組み：分析社会学の基本的な枠組みを紹介します。それにより、分析社会学が社会学の中でどのような位置を占めている（占める）のか、数理・計量社会学にとって分析社会学はどのような意味を持つのか、などを整理していきます。

②具体的な研究：分析社会学的研究の具体的例を紹介することを通じて、分析社会学的研究とは何かということを整理していきます。それにより、“理論志向の経験的研究”的意味することや、具体的な分析の道具には何が必要になるのかを整理していきます。

③実践：①②を踏まえて、「自分が分析社会学的研究を行うにはどうしたらよいか」という視点から、分析社会学的研究を整理していきます。それにより、数理・計量社会学をどのように応用・組み合わせていけばよいのか、を考えていきます。

④議論：分析社会学の基本枠組みや具体的研究には、議論の余地が多く残っており、論争になっています。私自身、真性アナリストというわけではありませんので、フロアの皆さんで議論して論点を整理しつつ、考えていきましょう。

## 8. テキスト

特になし

## 9. 参加費

無料

## 10. 定員

特になし

## 11. 参加資格

会員・非会員を問わず、どなたでも参加できます。

## 12. 申し込み

電子メールで第63回大会申込専用アドレスまでお申し込みください。jams63entry[at]gmail.com ([at]はアットマーク)。タイトルを「JAMS63セミナー申込（お名前）」として、本文に「1 氏名」「2 所属と職名（学年）」「3 会員・非会員の別」「4 このセミナーで得たいこと・セミナーで取り上げてほしいトピック」を記入のうえ、2017年3月6日（月）までにお送りください。

## 13. 留意事項

分析社会学においてエージェント・ベースト・モデルは重要な位置を占めていますが、ここではプログラミングの講習は行いません。あくまで、それをどのように使うかを紹介し、議論していきたいと思っています。また、上でおもに「数理・計量研究」と表記しましたが、質的研究や（バーバレな）理論研究者の方々も歓迎します。